

# 留学体験談

これ以外の留学体験談は、ホームページで Check!

〈HP〉「新潟大学 国際交流・留学」⇒「海外への留学」⇒「留学体験談」

▶ <https://www.niigata-u.ac.jp/international/study-abroad/student/>



## ショートプログラム (オーストラリア多文化共生社会体験プログラム)

工学部 渡辺 皓士 さん

私は2025年の春季休業に、5週間のオーストラリア多文化共生社会体験プログラムに参加しました。留学を決めた理由は、将来海外でも働けるようになりたいという目標があり、その第一歩として英語での生活を体験したいと思いました。

研修先では、月曜から木曜に文法を中心とした授業が行われ、金曜には異なるクラスの学生と協力してアクティビティに取り組みました。そこではさまざまな国や文化的背景を持つ人と交流でき、視野を広げる貴重な機会となりました。課題はパソコンで問題の解答や、ホストファミリーへのインタビューなどがありました。平日は授業後にクラスメイトとバーベキューをしたり、カフェに行ったりと、自然に英語を使う時間が多くありました。

1日の流れは、午前授業を受け、午後はホストファミリーと子どもの習い事に同行したり、買い物に行ったりするなど、現地の生活に深く関わるものでした。休日

は家族と映画を観たり、ナショナルパークや動物園に出かけたりと、まるで家族の一員のように過ごすことができました。

特に印象に残っていることは、毎日「知らない人に話しかける」という自分への課題を続けたことです。犬の散歩中や登下校の途中で出会った人に声をかけ、仕事や生き方について聞く中で、自分の視野が大きく広がりました。語学学習はポッドキャストを聞く程度でしたが、実際の会話の経験を通してスピーキング力の向上を実感しています。

私はこの留学を通して、「根拠のない勇気を持って一歩を踏み出すことの大切さ」を学びました。この「根拠のない勇気」とは、十分な準備や実績があるわけではないのに、「なんとなくできる気がする」と思って踏み出すことです。つまり、これまでの準備や実績が留学の成功を決めるわけではなく、一歩を踏み出す勇気そのものが大切なのだと思えました。留学を迷っている人には、ぜひこの「根拠のない勇気」を持って一歩を踏み出してほしいと思います。



## ショートプログラム (シンガポール・スプリングセミナー)

経済科学部 横尾 誠太郎 さん

私が本プログラムへの参加を決めたのは、友人の勧めがきっかけだった。大学生のうちに海外に行きたいと思いつつも一歩踏み出せずにいた私にとって、急成長を遂げ、多様な文化が共存するシンガポールは未知の発見がある魅力的なフィールドだった。また現地の企業訪問やシンガポールの学生との交流も大きな魅力だと感じた。

プログラムは、平日の午前は英語授業、午後は学生交流や企業訪問といったアクティビティで構成されている。授業はディスカッションがメインであるうえ、日本語で話すことを禁止されるため、日々の英語学習の成果と自分の知見を堂々と発表する場となる。他の参加者の示唆に富む意見に触れることで視野が広がった。また、聴衆の心に残るような伝え方や、海外流のプレゼンの技法を学べたことは、帰国後の活動に生きる貴重なスキルだと考

えている。

自由時間も充実していた。シンガポールは新潟市と同程度の面積であり観光地へのアクセスが非常に良い。メンバーと共に動物園、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイを訪問し、現地の空気を肌で感じた。1番印象に残ったことは、誕生日のメンバーをシンガポールフライヤからの夜景とともに祝ったことだ。このメンバー、この場所だけで得られない最高の思い出となった。またタクシーアプリを活用したことや現地の人と英語で積極的に会話することで自信につながった。

本プログラムは、学びとカルチャーの両面からシンガポールの理解が深まり、自分を磨く絶好の機会である。もし、短期間で観光も勉強も全力で楽しみたいのなら、このプログラムほど充実したプログラムはないと確信している。



## ショートプログラム (韓国サマーセミナー)

経済科学部 橋本 彩夏 さん

私は、ソウルの漢陽大学で行われた韓国サマーセミナーに参加しました。新潟大学の夏季休業期間に、約20日間のプログラムを受講してきました。韓国コンテンツへの関心から大学1年次に朝鮮語を履修していましたが、語学授業を受けながら韓国での生活を体験できる点に惹かれて参加を決めました。

本プログラムは、9時から13時まで韓国語の「正規授業」、昼食後はメンターとの文化体験や韓国コンテンツでの学習という「特別授業」で構成されていました。正規授業は、事前にレベル分けテストがあり自分に合ったクラスでの受講ができました。特別授業は、日本で人気なK-popアイドルの曲やドラマが題材の授業もありますが、現地の学生メンターと韓国を代表するノンパル演劇のNANTA公演を鑑賞したり、漢江のクルーズやチキンバーティーに参加したりしました。授業の無い休日は、一緒にサマー

セミナーに参加した学生やメンターと観光地を巡ったりショッピングをしたりして韓国生活を満喫しました。メンターとお互いの言語を教え合う勉強もできて、多くの刺激を得ることができました。

本プログラムの特徴は、「読む・聞く・書く・話す」がバランスよく構成された授業であることです。新潟大学では記述力に重点を置いた授業を履修していたため、全て韓国語で行われる授業で、まんべんなく語学力を向上させることができたと感じています。また、大学申し込みと一緒にプログラム参加をする仲間がいるので、初めての海外生活でしたが、安心して生活することができました。

旅行目的ではできなかっただろう多くの経験をさせてくれたプログラムでした。大学入学時から始めた朝鮮語学習ですが、授業の内容暗記に必死でなかなか上達しないことにストレスを感じることもありましたが、この留学をきっかけに意欲的に学習に取り組んでいるため、朝鮮語学習に挫折している人こそ、本プログラム参加を通して「生きた言

語」にふれて欲しいと思います。国際交流や言語学習・文化体験などで、「どんな学び」を得るかは人によって様々ですが、これから参加される皆さんにとって貴重な経験となることを願っています。



## 交換留学 (フランス・ナント大学)

人文学部 久須美 諒典 さん

私は大学3年の9月から一学期間、フランス・ナント大学に交換留学をしました。きっかけは、ナント大学からの留学生たちと授業で仲良くなったこと。初修外国語としてフランス語を学びはじめた当初は、まさか2年後にフランス生活が待っているなんて夢にも思っていませんでした。

新潟と姉妹都市であるナントは、とても住みやすい街です。特に、日本人をサポートしてくれる「なんとなくナント」という団体の存在は本当に心強く、安心して日々の生活を送ることができました。

留学中は、大学でのフランス語の学習だけでなく、日本の文化を発信する活動にも力を入れました。中でも、現地の友人や大学の職員さんたちに助けをもらいながら、学内の図書室で書道の展示会を開催できたことはとても良い思い出です。最初は全然理解できなかったフランス語は、大学の

授業や日常生活での会話を通して次第に上達し、気づけば中学生のころから何年も勉強してきたはずの英語よりも自由に話せる言語にまで成長していました。また、ともに学んだクラスメイトたち一人ひとりにも多種多様な背景があることを知り、そうした人たちとの出会いによってグローバル社会がとて身近なものになりました。

人生初の海外は、毎日が新しい出会いと発見の連続!フランスでの、日本とはあまりに違う日常はとて面白いものでしたし、日本以上に人と人のつながりが太くあたたかく感じられるフランスは、私にとって本当に居心地のよい世界でした。今、私の心の中では「これまでの自分」とフランスで見つけた「新しい自分」の二つの価値観が共存・融合しています。こうしてさまざまな物事に對してより多角的なまなざしを向けられるようになったことは、私の人生における大きな財産です。

留学は、語学力の向上がすべてではありません。

せん。興味関心や目的意識、そして新たな出会いや縁を大切に、あなたらしい素敵な留学体験が得られることを、心から願っています。



## 交換留学 (アメリカ・ロードアイランド大学)

法学部 小林 ジャンルース 愛子 さん

私は昔からアメリカの生活や文化に興味があり、小さい頃からアメリカのドラマや洋楽に親しむ中で、アメリカ留学が夢になっていました。また、英語を話せるようになれば関わる人の幅が広がり、自分の世界や将来の選択肢も広がると考え、留学を決意しました。さらに、多様な文化や人種が共存するアメリカで生活することで、自分の価値観や視野を広げたいという思いもありました。

留学先では国際寮に住み、多くの国から来た留学生と交流することができました。英語だけでなく、以前から学んでいたスペイン語を使う機会もあり、さまざまな国の文化に触れることができました。大学にはジムやスポーツ施設が整っており、アメリカンフットボールの試合などのイベントも多く、学業だけでなく生活面でも充実した日々を送ることができました。

学習面では、日本の大学と比べて課題が多く、授業はすべて英語で行われるため大変に感じることもありましたが、最初は発言することに苦労しましたが、次第に自分の意見を積極的に述べる姿勢が身につきました。一方で、留学生を支援する体制も整っており、留学生の相談に乗ってくれる先生や、エッセイの添削を行ってくれるライティングセンターを活用しながら学習し、学びを深めることができました。

さらに、ハロウィンやサンクスギビング、クリスマスなどの行事を現地で体験できたことや、他の州はもちろん、カナダへの旅行もできたことが印象に残っており、とても楽しく充実した留学生活を送ることができました。

留学を通して語学力や異文化理解力に加え、問題解決力や度胸が身につく、この1学期間はこれまでで最も成長できた時間でした。留学前は卒業や就職活動への不安もありましたが、結果的にこの経験は就職活動でも強みとなり、挑戦して本当によかつ

たと感じています。留学を考えている人や迷っている人には、ぜひ前向きに挑戦してほしいと思います。



## トビタテ!留学JAPAN新・日本代表プログラム (ドイツ・交換留学とボランティア)

人文学部 鈴木 歩 さん

私は、トビタテ!留学JAPANと学部の交換留学制度を併用し、2024年10月から2025年8月までの約1年間、ドイツに留学しました。

私のビジョンは、「ひとりひとりが自分の夢や目標を、胸を張って語れる日本社会をつくること」です。その実現には「多様性」への理解が不可欠だと考え、「ドイツ・ヨーロッパにおける難民・移民の受け入れ」を軸に、多様性とその裏にある葛藤を学ぶ留学を設計しました。

留学先はルール大学ボーム。専門分野やテーマ関連の講義を受講するとともに、実践活動としてドイツ国際平和村で、紛争地域から来た子どもたちの生活支援ボランティアに参加しました。大学には難民・移民の背景を持つ学生も多く、戦争体験を本人の言葉で聞く機会がありました。ニュースでは得られない「生の声」に触れ、共生社会のあり方を人間

の深い部分から考えることができました。

そんな日々の中で、私は多くの人と出会い、多様な人生の物語に触れました。そして確かになったことは、「人の数だけ物語があり、世界の見え方があり、それらは簡単に比べられるものではない」ということです。生きていて目を疑うような出来事はたくさん起こります。そんなとき、「そういう世界もあるのかもしれない」と一歩引いて受け止められるようになったことは、私を縛っていた「当たり前」を少しずつほどいてくれました。

留学全体を通して、情報の力と危うさ、平和の意味、そして多様性と向き合うための「尊重」と「気遣い」の大切さを学びました。また、トビタテで出会った仲間とのつながりも私にとって大きな財産となりました。

留学を終えた今、心から言えるのは「留学に行けて、本当によかった」ということです。私にとって留学は「出会いの物語」でした。

あなたの一歩を応援してくれる人は、きっと想像

以上にいます。留学という挑戦が、あなただけの物語を紡ぎきっかけになることを願っています。



※写真提供: ドイツ国際平和村

※トビタテ!留学JAPAN新・日本代表プログラム第2ステージは2025年度で終了しました。